



2020年12月14日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 29号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. ガーナココボード、立花商店、Guittard社などから出資を受け、発酵センターをOffinsoに開設(12/6)

ガーナココアボード(COCOBOD)のファイン/フレーバーカカオ生産プロジェクトの元で、ガーナ初の農家所有のカカオ発酵・乾燥センターがアシャンティ地域のオフィンソ地区にオープンしました。この発酵センターは、日本の立花商店、米国のギタードチョコレート、ガーナのLBCであるトランスロイヤル社、ガーナココアボードが、ガーナ・ココア研究所(CRIG)の技術支援を受けて共同出資しました。

CRIGのエグゼクティブ・ディレクターであるアイザック・ヨー・オボク博士は、ファインフレーバー・ココア・ファーマーズ協同組合に施設を正式に引き渡す式典で、この地域で生産される高品質のカカオ豆の品質を損なわれないように発酵センターが建設されたと説明した。彼はさらに、同国では、通常のアラステロ種と異なる、プレミアム品種を年間約30トン生産していることを明らかにし、プレミアムカカオの生産に適した地域の特定を行い、生産増加を計画していることを明かした。

「最初の土壌試験では、オフィンソ地区の土壌がカカオの細かい風味を醸し出すのに有益とされ、最近ではアキム・オダと他の2つの地区の土壌をも同じく最適であると特定し、今後プレミアムカカオはそのような場所を中心にして増やしていけるだろうと語った。



*式典の様子/立花商店・石本(写真右)

Opoku 博士は、ファインフレーバーカカオ豆は世界市場で高い価格、トン当たり約 5000 ドルから 10,000 米ドルで販売されていると付け加えた。

ガーナのニッチカカオ市場への浸透の試みは、2008 年にオフィンソ地区のパイロットプロジェクトから始まりました。彼は、15 から 515 へのオフィンソファインフレーバーファーマーズ協同組合の会員数の着実な成長を賞賛し、より多くの農家がプロジェクトに署名するにつれて、今後生産数量が上がるだろうと表明した。

オフィンソ・ファイン/フレーバー・ファーマーズ協同組合のアレックス・オポク・メンサ会長は、発酵センターは農家にとって大きな救済であり、センターで適切に発酵・乾燥を行う事で、収穫後のプロセス中にカカオの盗難と悪い気象条件への対応が可能になるとメリットを述べた。

彼は、ココボッドとパートナー組織である立花商店やギタードチョコレートがファイン/フレーバーカカオの生産に向けて継続的に支援したことに感謝の意を表明しました。オポク氏は、カカオ豆の発酵センターへカカオを運搬する為の自動三輪車の購入を資金調達パートナーに依頼した。

プロジェクトのパートナー組織の 1 社であるトランスロイヤルガーナのアダム・モハメッド氏は、彼らが発酵センターに彼らのカカオ豆を輸送するのを助けるために要求された三輪車を農家に提供することをその場で約束しました。

オフィンソの伝統地域であるココテ村のチーフであるナナ・オポク・アシエドゥ 2 世は、COCOBOD とオフィンソに発酵センターを設立したパートナー組織に感謝の意を表明しました。彼は、地域内外の様々な農業コミュニティに同様のセンターの設立を奨励するために、この発酵センターをしっかりと管理するように生産者達に依頼しました。



*発酵センターの説明の様子

2. カカオ先物価格、2 週間ぶりの安値水準へ、需要の減退と供給過剰が背景 (12/9)

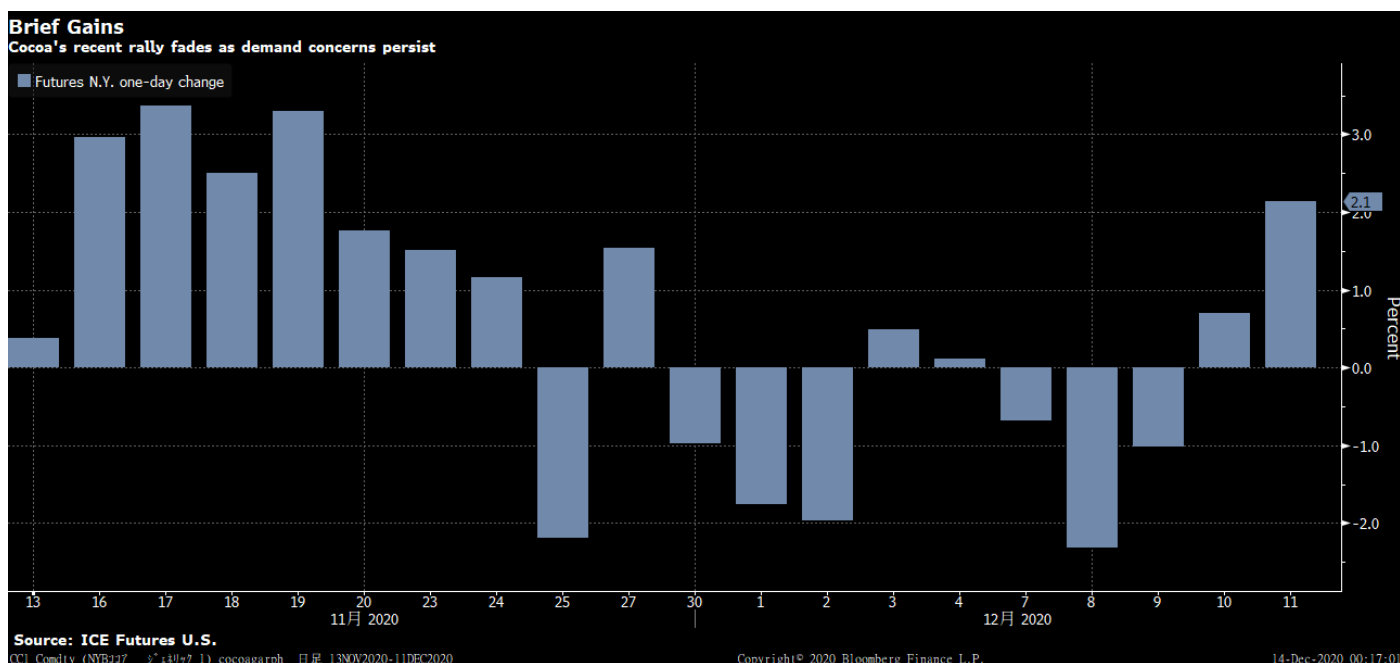
今週、カカオ先物は、投資家がカカオの供給過剰の見通しと、縮小するフードサービス業界におけるチョコレート使用の悲惨な見通しに焦点を当てたため、2 週間ぶりの安値水準に下がった。

市場の焦点は少なくとも 15 万トン以上あると予測されている供給過剰と、コロナウイルスの影響を大きく受けているレストラン業界向けなどのフードサービスの需要にある。フードサービス向けのチョコレート需要を「

本当に酷い」と、ニューヨークのニックジェン・キャピタル・マネジメントのパートナーであるニック・ジェンタイルは電話インタビューで語った。

カカオの先物市場は先月、ハーシー社とコートジボワールとの間の論争に端を発し、急騰したが、その後、同社は西アフリカ両国及び業界に対して、説明を行いハーシー社に対する懸念は一時解決した格好となった。また、作柄としては、引き続き乾燥がガーナの収穫量に懸念となっている。

《11月中旬から12月11日までの前日比の価格の上下値動きの割合》



12月9日の市場では3月配送のココアは2.3%下落し、11月18日以来最も活発な取引数量契約で最低の2,557ドルに触れた後、ニューヨークのICE先物米国で1トン2,575ドルで終えた。

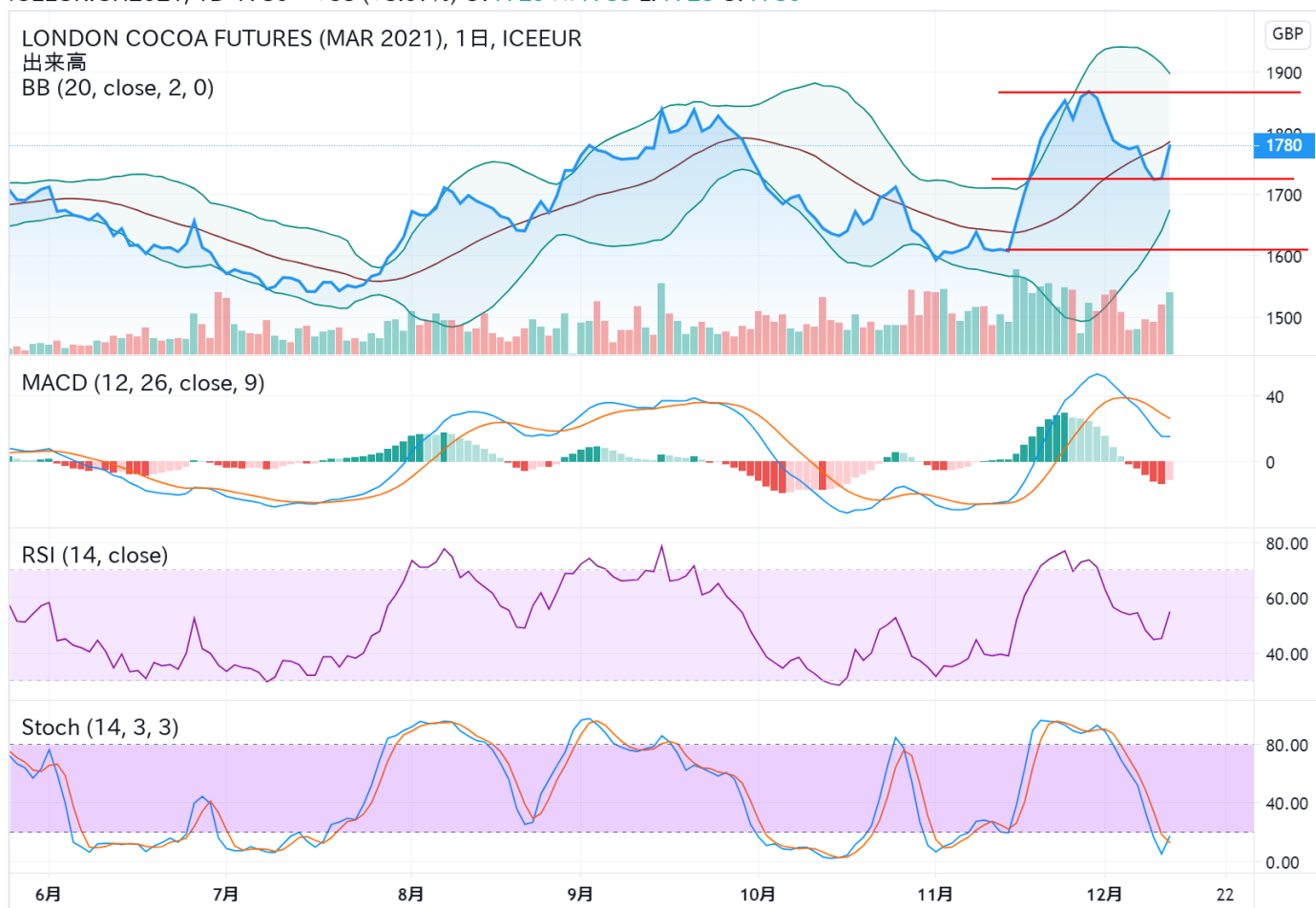
コートジボワールの生産者達はまだ80万トンを持っているかもしれず、それはいずれ市場でヘッジ取引される数量であると同氏は指摘。現在の価格下落で、生産国側は値段を決めたくない為に、先渡し契約の販売は進まないだろうと予測。また、チョコレート需要の弱さはカカオバターの十分な供給量を既に残しており、今後チョコレートを作るために原材料を購入する必要性を減らしているとも予測している。

ココアは2,400ドルに下がるかもしれない、と同氏は予測している。

3. 来週以降の価格予測-ロンドンカカオ先物- (12/14)

11月中旬からの大きな買いはまだ解消されておらず、中期的(1-2か月の動向)には再度の下げを予測。

Cacao-wataru TradingView.com で公開, 12月 14, 2020 00:43:57 JST
ICEEUR:CH2021, 1D 1780 ▲+53 (+3.07%) O:1729 H:1789 L:1723 C:1780



TradingView

11月13日の週まで1610ポンド付近にいた価格が、11月27日に1860ポンドまで大きく上げてきた。この反動が12月4日までの週で1780まで調整、先週は水曜日まで大きく下げて1720まで行き、木曜日、金曜日で回復し度12月4日の1780まで回復したというのが3月限月の最近の動き。11月13日-27日の上げは250も上昇しておりかなり強力であった。それに対して、12月に入ってから下げはそれまでの上昇に比べてるとまだ弱いと思われる。先週末の上昇は、個人的には小さなトレンドであり、大きな流れとしては、まだ下げ方向の動きであると、個人的には考えている。但し、一定の下げが続けば、買いに入る投機筋、実需筋の値決めがある為、1週間くらいの連続下げがあった後での調整の範囲であろうとみている。しかし、今週は12月限月が終わり、3月限月が第一限月になる為、相場のトレンドだけでない注視が必要である。最近のカカオ相場の傾向として第一限月が第二限月よりもかなり高値誘導される傾向があり、12月限月終了後の3月限月の動きに今週は注目したい。過去の価格と現在の需給のバランスから言えば、ロンドンカカオ相場は1,500-1600GBP、LIDまで考えれば1400GBP代でも不思議ではないが、業界の混乱なども背景に投機筋などがやや買いに積極的な傾向があり、短期的な値動きが激しい環境下である。

4. ガンチョンココア (GCB) は約 75 億円相当のイスラム債 (社債) 発行を完了 (12/4)

世界第 4 位のカカオ磨砕業者であるガンチョンココアグループ (以下、GCB) は、同社の発酵するイスラム債 (日本でいう社債に近い) は 7 年間の任期を持ち、マレーシア格付け会社 Bhd (MARC) によって安定した見通しで AA-IS の予備格付けを割り当てられた。

今回発行した 3 億マレーシアリングgit (≒75 億円) は、同社の全体の発行可能枠 8 億リングgit (≒200 億円) の一部です。調達された資金は、GCB の一般的な運転資金、設備投資、既存の借入金の借り換え、その他の一般的な企業目的の資金調達に使用される。

マネージング・ディレクター兼最高経営責任者のブランドン・テイ氏によれば、このイスラム債は低金利環境の恩恵を受けながら、同社が拡張計画の資金を得るための最良の方法として実行した。

「これは、当社の成長軌道を維持しながら、資金調達コストを低く抑える上で有利」

「この発行後の当社の負債比率は依然として健全な水準にあり、カカオ豆の購入のための短期運転資金を含む借入金の大半は、主に顧客からの注文に裏打ちされています」と、彼は今日の声明で述べました。

今年 9 月 30 日時点で、グアンチョンの総負債レシオ (総負債/総資産) は 11 億 RM の総借入額に基づいて 0.92 倍程度。

同社によると、2020 年 9 月 30 日までの 9 ヶ月間の財務コストは 1,990 万 RM (≒4.97 億円) に相当し、同社の利息・税引き前利益の RM23,270 万 (≒58 億円) の 8.5% を占めている。

「当社の資金調達コストは負債と並行して上昇しますが、レバレッジド・エクспанション・プランはグループをカカオ業界の次のレベルの活躍の場に引き上げることが出来れば問題レベルだ」と同氏は述べています。

GCB はコートジボワールに 60,000 トンのカカオ磨砕工場を新規建設中で推定コストは 5,000 万ユーロ (≒65 億円) から 6,000 万ユーロ (≒78 億円) で、世界最大のカカオ豆生産国への投資の第一段階としている。この工場が 2021 年後半に完成すると、グループの年間粉砕能力は現在の 250,000 トンから 310,000 トンに増加する

また、最近買収した英国の工場については、付加価値の高いカカオ原料やチョコレート原料の製造設備へ変換を予定している。こちらも、2021 年後半に工場の竣工を予定し、欧州における同社の販売・流通ネットワークを強化する。

5. ファンド勢のロンドンカカオ先物の純買い越しポジション 2 か月ぶりの強気水準 (12/11)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純買いポジションを 2,678 ロット増やし、25,087 ロットとなったことが、ICE 欧州先物取引所 r の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで (今週で言えば) 12 月 8 日までの取引が含まれている。

- 純買いポジションの数量 25,087 ロットは過去 2 か月間で最も多い水準。
- 買いポジションの総量は 12 月 8 日までで、前週より 562 ロット増えて 25,749 ロットとなった。
- 買いポジションの総量は過去 2 か月以上で一番多い。
- 売りポジションの総量は 12 月 8 日までで、前週より 2,116 減少して、662 ロットとなった。売りポジションの総量は過去 6 か月で一番低い水準

6. ファンド勢のNYカカオ先物は、純買い越しポジションが減少 (12/11)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純買いポジションを2,051 ロット減らし、34,020 ロットとなったことが、ICE 欧州先物取引所 r の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで (今週で言えば) 12月8日までの取引が含まれている。

- 買いポジションの総量は12月8日までで、前週より1,243 ロット減って56,168 ロットとなった。
- 売りポジションの総量は12月8日までで、前週より808 増加して、22,148 ロットとなった。売りポジションの総量は過去3週間で一番高い水準

7. インド・デリの夫婦がインド初の手作りチョコレート工房併設のカフェをオープン(12/13)

昨年のある夜、31歳のシータル・サクセナは、彼女の Instagram アカウントを閲覧している間、コーヒーマシンの中で焙煎されている特殊な豆を見ました。一見、彼女はそれらがコーヒー豆ではないと思い、興味をそそられた彼女は、夫のニシャント・クマール・シンハ(35)にそれを見ました。

彼もその豆が何かわからなかったもので、彼女はグーグルで検索し、その豆がチョコレートの原料になるカカオ豆であることを知りました。興味を持った二人はカカオについて調べることから始め、最終的には手作りのチョコレートブランドを開始するというアイデアにつながった。ブランド名は『Colocal-コローカル』。そして今年10月、二人はチャタルプルのダンミルにて、フラッグシップとなるカジュアルカフェダイニング兼チョコレート工場を立ち上げました。

「コローカルは持続可能で、無駄をゼロにし、情熱を駆使したブランドです。私たちの目的は、チョコレートについて人々を教育し、チョコレートを作るプロセス全体と技術を探求できるようにインドに Bean TO Bar 市場を作る事で、私たちはチョコレートの贅沢体験を再定義したいと考えています」とシータルは言う。



*左がフラッグシップのカフェ兼工房、右がご夫婦

この夫婦が、新しいチョコレートブランドを立ち上げる際に、コーヒー業界での夫のニシャントの経験が役立ちました。ジョードプルのホテル経営研究所の卒業生でもある彼は、カフェコーヒーデーでキャリアをスタートさせたプロのコーヒーロースターでもあり、彼の家族が3世代のケータリングビジネスに参加していたことも非常に参考になりました。

Colocal が結成される前の 1 年半の研究で、シータルは、カカオ生産を行うケララ州の地元の人々と一緒に住み、カカオがどのように栽培され、調達され、チョコレートを作るために処理されているかを理解しました。彼女はまた、チョコレート作りのテクニックを学ぶためにミラノにも赴き勉強を重ねました。

「純粋なチョコレートだけをスターにしたかったのですが、私たちは多くの研究をしました」とニシャントは言い、その後クラフトチョコレートを作り始めました。否定的な人たちは、『チョコレート製造は、大変で経験が必要な為、もっと専門的な技術と正式な知識が必要だ』言ってやめたほうが良いといましたが、二人はあきらめませんでした。「必要なのは、情熱と献身だけです」と二人は言います。

8. メッセージ・ド・ローズ×meiji のコラボチョコレート(12/13)

～3 種の味が楽しめる数量限定商品で 1 月 17 日(木)に新発売！～

大正元年創業のチョコレートメーカーであるハンター製菓株式会社(本社：東京都中央区、代表取締役：柳澤一嘉)は、オリジナルブランド「メッセージ・ド・ローズ」より、明治の「meiji THE Cacao PROFESSIONALS(明治 ザ・カカオ プロフェッショナルズ)」との限定コラボチョコレート、『メッセージ・ド・ローズ×meiji 限定版ソニア』を 1 月 17 日(木)に発売いたしました。厳選された 3 種の味を楽しめる、数量限定商品です。



メッセージ・ド・ローズ×meiji のコラボ商品が登場です。4 段に重ねた薔薇のチョコレートは、3 つの味をお楽しみいただける特別な逸品。1 つ 1 つこだわり抜いて選んだおすすめのコラボチョコレートです。今までのメッセージ・ド・ローズにはないブラックの限定パッケージがより一層の特別感を演出します。

メッセージ・ド・ローズ×meiji 限定版ソニア

https://www.atpress.ne.jp/releases/175293/img_175293_2.jpg

チョコレート 味説明

https://www.atpress.ne.jp/releases/175293/img_175293_3.jpg

上記内容は、公式プレスリリースより情報入手しております。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp